

栃木県わがまち未来創造事業実績書(市町総括表)
【単独】

市町名	栃木市
-----	-----

(単位:円)

No.	単位事業名		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	合計
1	渡良瀬バルーンレース 地域活性化事業	総事業費					4,919,439	4,919,439
		うち市町支出額					3,951,738	3,951,738
		うち県交付金					1,000,000	1,000,000
2	高校生社会参画促進事業	総事業費				105,200	113,000	218,200
		うち市町支出額				100,000	100,000	200,000
		うち県交付金				50,000	50,000	100,000
3	新生栃木市10周年記念 とちぎの人形山車 展示事業	総事業費					1,402,389	1,402,389
		うち市町支出額					1,300,000	1,300,000
		うち県交付金					650,000	650,000
4	渡良瀬バルーンレース 開催事業	総事業費		5,652,276	5,436,803	5,420,121		16,509,200
		うち市町支出額		4,300,000	4,000,000	4,000,000		12,300,000
		うち県交付金		1,000,000	1,000,000	1,000,000		3,000,000
5		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
6		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
7		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
8		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
9		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
10		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
市町計		総事業費	0	5,652,276	5,436,803	5,525,321	6,434,828	23,049,228
		うち市町支出額	0	4,300,000	4,000,000	4,100,000	5,351,738	17,751,738
		うち県交付金	0	1,000,000	1,000,000	1,050,000	1,700,000	4,750,000

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	栃木市
事業名	渡良瀬バルーンレース地域活性化事業
事業主体の名称	渡良瀬バルーンレース実行委員会
代表者の名称	実行委員長 神島 馨
事業主体の所在	〒323-1192 栃木県栃木市藤岡町藤岡1022-5
事業主体の概要	・団体の目的:渡良瀬遊水地において熱気球大会を開催し、スカイスポーツの普及及び啓蒙を図り、もって地域振興に寄与すること ・設立年月日:平成23年1月17日 ・構成員等:一般社団法人栃木市熱気球クラブ、藤岡町商工会、一般社団法人栃木市観光協会藤岡支部、下野農協協同組合、一般財団法人渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団、特定非営利法人熱気球運営機構、栃木市、栃木市藤岡地区スポーツ協会、足利銀行藤岡支店、栃木信用金庫藤岡支店
当該事業に係る地域の現状と課題	渡良瀬遊水地は本州最大のヨシ原と450haの貯水池を含む遊水地で、その広大な立地特性から従来よりスカイスポーツ、ウォータースポーツが盛んに行われてきました。中でも熱気球にとって渡良瀬遊水地は、通年フライトできる数少ないエリアとして知られており、多くの愛好家が訪れています。このような中、栃木市では2000年から行政だけではなく地元関係者と競技関係団体等からなる実行委員会を組織して、市民協働のイベントとして「栃木市・渡良瀬バルーンレース」を開催しています。平成29年度から、わがまち未来創造事業交付金を活用し、バルーンレース来場者に対し渡良瀬遊水地及び栃木市のPRを行い交流人口の増加を図り、観光客入込数が増加しました。一方で地元観光産業の基盤が未発達であり、市内観光地との連携も十分とは言えず、観光客の増加による地元産業への好影響は限定的なものとなっています。今後は、交流人口の更なる増加を図るとともに、観光客の増加を市内観光産業への好循環につなげ地域活性化を図っていく必要があります。
事業目的	・渡良瀬遊水地及び周辺で日常的に親しまれているレジャースポーツである熱気球の全国的な競技大会を開催し熱気球人口の増加と競技技術の向上を図るとともに、栃木市の地域振興を図る。交流人口の増加を地元観光産業の発展につなげていくとともに、イベント来訪者に渡良瀬遊水地および栃木市の魅力をPRし、市内観光地と連携し栃木市の滞在時間を増やし、宿泊客の増加を図る。スカイスポーツのメッカとして栃木市の持つ都市ブランドに磨きをかけ、熱気球に携わる者の栃木市への定着を図る。
事業概要	小学生向け熱気球教室を市内小学校を対象に開催し、普段、自宅等から飛行している姿が見える熱気球がどのような仕組みになっているか、どのような原理で飛行するかをミニ熱気球を作製し飛ばすことで、熱気球をもっと身近に感じてもらうイベントへの興味を深め熱気球及びバルーンレースが自分達に身近な存在であることをPRした。栃木県東京事務所を通しての告知や熱気球グランプリのシリーズ戦を開催する他の4自治体と合同の記者説明会でのPR活動を行った。宿泊施設運営事業者と連携し、大会と市内観光及び宿泊を連携したプランを開発して宿泊客の増加を図った。大会としては、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として会場の周囲をネットで囲み、出入口を限定し、来場者へマスク着用、手指消毒、検温、接触確認アプリの導入確認及び依頼、それらが済んだ人にはリストバンドを着用し、入場パスとすることで、会場入場者の整理を行った。また、対策を取ることが難しい会場内でのイベントや体験コーナーは中止とし、開催できるイベントも対策を十分にとり実施した。会場内照明の充実や遊水地の特徴ある植物のヨシを使ったヨシ灯りによるライトアップを行い暗がりや減らすことで会場内の通路等の安全・安心を確保し、さらに誘導員による案内のスムーズ化をすることで、さらなるホスピタリティの向上を図った。また、注目度の高い日本選手権を開東で初めて開催することで、栃木市への誘客を促した。競技の行われない時間を利用して、渡良瀬遊水地及び栃木市の魅力をPRした。 【時期】令和2年12月11日(金)、12日(土)、13日(日)、14日(月) 【会場】藤岡渡良瀬運動公園、渡良瀬遊水地内及びその周辺 【主な内容】①小学生向け熱気球教室(告知事業)・・・(熱気球の原理を学んだり、ミニ熱気球を作り実際に飛ばしてみる体験を通して競技及び大会の魅力を感じる教室) ②バレンタインイベント及びバーナーイリュージョンイベント(告知事業)・・・(ハート形熱気球でバレンタインデーにハートの下で記念撮影会をし、熱気球の魅力やイベントの周知を図る) (市内イベントにおいてバーナーイリュージョンを行い、熱気球の魅力やイベントの周知を図る企画)⇒コロナウイルス関連により中止 ③熱気球ホンダグランプリ、栃木市・渡良瀬バルーンレース大会、熱気球日本選手権・・・(国内のトップ選手たちによる熱気球の大会、今回は日本選手権を同時開催) ⇒コロナウイルス対策として会場入口を限定し検温等の対策の上、実施 ④バルーンイリュージョン・打上花火・ヨシ灯りライトアップ・・・(熱気球ライトアップと打上花火のコラボレーションによるプログラム、ヨシを使ったヨシ灯りによる会場のライトアップ) ⇒コロナウイルス関連によりバルーンイリュージョン・打上花火は中止 ⑤マイクロライトプレーン展示、紙飛行機体験教室、モーターパラグライダーデモンストレーション、スカイダイビングデモンストレーション・・・ (普段、間近で見ることのできない機体を見たり触ったりしたり、紙飛行機を作り飛ばす体験、生のスカイスポーツを間近で見るとともに)⇒コロナウイルス関連により中止 ⑥熱気球教室、熱気球係留搭乗体験・・・(広大な渡良瀬遊水地で行われる熱気球競技のルールを学んだり、熱気球の魅力やイベントの周知を図る) ⇒コロナウイルス関連により熱気球教室は中止、熱気球係留搭乗体験はコロナ対策の上、実施 ⑦同時開催:地場産物販売開催・・・(来場者の滞在時間を増やすため、地元グルメや体の温まる食品の販売) ⇒コロナウイルス対策として規模を縮小し、持ち帰り品のみの販売として実施 ⑧渡良瀬遊水地及び栃木市PR・・・(渡良瀬遊水地の歴史や自然環境のパネル紹介及びガイド付きミニツアーの実施、栃木市全体の観光地各所の紹介及びガイド付きミニツアーの実施) ⇒コロナウイルス関連によりガイド付きミニツアーは中止し、会場内模擬店及び市内農産物等の販売コーナーにて市PRを行った。 ⑨市内農産物等の販売コーナー・・・(市内農産物等のPRと販売) ⇒コロナウイルス対策として規模を縮小し、試食等はせず持ち帰り品のみの販売として実施 ⑩スポーツ体験教室・・・(サッカー教室など体験型のイベントの実施) ⇒コロナウイルス関連により中止 今回は多くのイベントがコロナウイルス関連により中止となり、各種の利用団体および一般参加者に本イベント及び熱気球競技の周知に努めることが難しかった。翌年度以降も「栃木市PRの玄関口」を継続しながら、栃木市の宝である渡良瀬遊水地で特色のあるレジャースポーツに力を入れて、新しい観光客の増加に努め事業の拡大を図っていく。 ・渡良瀬遊水地は地域特性として4県4市2町にまたがり、もともと市外、県外からの来訪者が多いが、広報活動においては、各種のレジャースポーツを楽しむ団体の方々や一般の来訪者へ市の広報の他に、タウン誌やラジオ、HP、facebook、チラシ、ポスター等で周知を行い、県内外へのさらなる広域的なPRを行っていく。
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【基本目標】「本市への新しい人の流れをつくる」 【具体的施策】交流人口の増加/観光資源の魅力向上と有効活用 【KPI】主要観光地及び観光施設観光客入込数 H26:365万人→R1:372万人

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	令和2年度		支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①小学生向け熱気球教室(告知事業) ②バレンタインイベント及びバーナーイリュージョンイベント(告知事業) ⇒中止 ③熱気球ホンダグランプリ、栃木市・渡良瀬バルーンレース大会、熱気球日本選手権開催 ④バルーンイリュージョン・打上花火・ヨシ灯りライトアップ ⇒ヨシ灯りライトアップのみ実施 ⑤マイクロライトプレーン展示、紙飛行機体験教室、モーターパラグライダーデモンストレーション、スカイダイビングデモンストレーション ⇒中止 ⑥熱気球教室、熱気球係留搭乗体験 ⇒熱気球教室は中止 ⑦同時開催:模擬店開催 ⇒規模を縮小し実施 ⑧渡良瀬遊水地PR、ガイド付きミニツアー、栃木市PR、ガイド付きミニツアー ⇒中止 ⑨農産物販売 ⇒規模を縮小し実施 ⑩スポーツ体験教室 ⇒中止			①小学生向け熱気球教室(告知事業) ②デモフライト及びバレンタインイベント(告知事業) ③熱気球ホンダグランプリ第1戦栃木市・渡良瀬バルーンレース大会開催 ④バルーンイリュージョン・打上花火 ⑤マイクロライトプレーン展示、紙飛行機体験教室、モーターパラグライダーデモンストレーション、スカイダイビングデモンストレーション ⑥熱気球教室、熱気球係留搭乗体験 ⑦同時開催:さくら祭り ⑧栃木市PR移住体験案内や観光PR、ガイド付きミニツアー ⑨渡良瀬遊水地PRガイド付きミニツアー ⑩農産物販売 ⑪スポーツ体験教室
事業費	4,919,439		4,919,439	8,946,000
市町支出金 (ソフト事業分)	3,951,738		3,951,738	4,000,000
うち県交付金	1,000,000		1,000,000	
市町支出金 (ハード事業分)	0		0	0
うち県交付金	0		0	
その他自主財源等	967,701	0	967,701	4,946,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	産業振興部 藤岡産業振興課 商工観光係
担当者名	小野 晶久
電話	0282-62-0907
FAX	0282-62-0918
E-mail	f-sangyou04@city.tochigi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業収支精算書)

市町名	栃木市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	渡良瀬バルーンレース地域活性化事業	
対象年度	2	年度

1 収入の部

科目	精算額	備考
栃木市負担金	3,951,738	市負担金
協賛金	445,000	公式プログラム広告協賛金(20社、¥270,000) 打上花火協賛金(18件、¥145,000、法人・個人含む) その他協賛金(1社、¥30,000)
繰越金	522,696	前年度繰越金
雑収入	5	預金利息
計	4,919,439	

2 支出の部

科目	精算額	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		県交付金			
報償費	115,400	110,000	35,000	5,400	告知事業熱気球教室講師謝礼 20,000 大会MC謝礼 70,000 大会表彰記念品代 25,400
旅費	5,240	5,240	0	0	記者説明会等参加旅費 5,240
交際費	0	0	0	0	
消耗品費	142,246	140,000	70,000	2,246	会場設営用消耗品 100,354 大会運営用消耗品 41,892
燃料費	0	0	0	0	
食糧費	23,599	0	0	23,599	告知事業スタッフ昼食代 20,274 告知事業用菓子代 3,325
印刷製本費	79,200	79,200	0	0	告知ポスター・チラシ印刷 79,200
通信運搬費	67,887	67,887	0	0	各種郵送料 45,706 競技本部ネット回線使用料 22,181
手数料	32,380	30,000	0	2,380	仮設トイレ汲取り手数料 31500 振込手数料 880
委託料	1,794,595	1,790,000	895,000	4,595	会場設営委託 1,479,005 会場警備及び駐車場誘導委託 297,880 大会看板作成業務委託 17,710
使用料及び賃借料	0	0	0	0	
備品購入費	82,071	80,000	0	2,071	撮影・放映機器一式 82,071
負担金補助及び交付金	1,250,000	1,250,000	0	0	
次年度繰越金	1,326,821	399,411	0	927,410	次大会開催PR費用等 702,701 花火・プログラム協賛金 415,000 その他支払い分 210,000
計	4,919,439	3,951,738	1,000,000	967,701	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の即(需用費、役務費は細即)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調書)
【単独事業】

市町名	栃木市
事業名	高校生社会参画促進事業
事業主体の名称	とちぎ高校生蔵部
代表者の名称	菅谷 悠樹
事業主体の所在	〒328-8686 栃木県栃木市万町9-25 栃木市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習課内
事業主体の概要	<p>・団体の目的: ボランティアやまちづくりに関心のある高校生が気軽に集い、同世代の仲間だけでなく大人とも語り合いながら、高校生の視点による自主的な活動を展開し、栃木市の賑わいの創出に寄与することを目的とする。</p> <p>・設立年月日: 平成26年4月1日</p> <p>・構成員等: 栃木市内に居住する高校生及び市内の高等学校に在学する高校生並びにとちぎ高校生蔵部の目的に賛同する高校生</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>・市内の高等学校に通学する生徒が中心となり、「とちぎ高校生蔵部」を立ち上げ、まちなかでのイベントに参画している。栃木市中心部においても高齢化が進捗し、イベント等での担い手が不足していることから、高校生の視点による事業を展開し、中心市街地の活性化を図る必要がある。</p> <p>・「とちぎ高校生蔵部」の取り組みにより、高校生の地域づくり活動への関心度が高まってきている一方で、地域のイベント等での担い手要請は後を絶たない状況である。そのようなことから、まずは高校生が街なかの魅力に触れる機会を創出し、イベントに参加した高校生が栃木市の魅力に触発され、将来の地域の担い手として活動してもらえる環境整備が必要である。</p> <p>・マップづくりや街歩きイベントを行うことで、高校生の栃木市の歴史や伝統工芸品等の認知度が低いことから、認知度を高める取り組みを行うことが必要である。</p>
事業目的	高校生の視点による栃木市の魅力発信と街なかの賑わい創出
事業概要	<p>【令和2年度】</p> <p>①地元商店等の協力を得ながら、高校生がお勧めする「栃木の街散策マップvol.5(改訂版)」を作成し、栃木市の魅力を観光客や市内に通学する高校生に発信した。 作成部数: 9,000部(日本語版)</p> <p>②マップを活用した若者及び栃木市来訪者向けの街歩きイベントを開催する。 ※11月7日に「とちぎ秋まつり」において開催予定だったが、新型コロナウイルスにより「とちぎ秋まつり」が中止</p> <p>③とちぎ高校生蔵部部員が講師となり、栃木市伝統文化体験事業をパーラートチギにおいて開催した。 (籌づくりWS) 開催日: 令和2年12月19日(土) 開催場所: パーラートチギ 参加者: 14名</p> <p>【令和2年度実施事業の特徴】</p> <p>①マップづくりは、学割を実施する店舗数を増やす取り組みを併せて行い、マップを見た若者が栃木市に来訪し、街なかの若者交流人口を増やす取り組み。</p> <p>②街歩きイベントは、高校生に限定して実施していたが、栃木市に関心ある大学生等を含めた若者に対しても実施する。</p> <p>③栃木市の伝統工芸品である「栃木の樽」や「都賀の蓑」等の製造技術等を学び、伝統文化継承の必要性や伝統工芸品の新たな活用方法等について体験活動を通して発信します。</p> <p>【事業のPR方法】</p> <p>SNS(twitter, facebook)を活用し、市内外から通学する高校生及び大学生等をターゲットに情報発信を行い、栃木市への関心を高めてもらう。</p> <p>【翌年度以降の取組み】</p> <p>とちぎ高校生蔵部で活動するメンバーの加入促進に取組み、翌年度以降についても上記事業を拡充し、市外からの若者の来訪者及び市内に在住する若者のまちなか交流人口の新たな流れを構築する。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標】「本市への新しい人の流れをつくる」</p> <p>【具体的施策】交流人口の増加/観光資源の魅力向上と有効活用</p> <p>【KPI】主要観光地及び観光施設観光客入込数 H28: 365万人 → R2: 380万人【R1: 394万人】</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	令和1年度	令和2年度	支援期間の事業費計	支援期間の翌年度
事業内容	①「栃木の街散策マップ」作成 ②「高校生イチオシ! 蔵の街魅カツアー」開催 ③「栃木市伝統文化体験事業」開催	①「栃木の街散策マップ」作成 ②「高校生イチオシ! 蔵の街魅カツアー」開催 ③「栃木市伝統文化体験事業」開催		①「栃木の街散策マップ」作成 ②「高校生イチオシ! 蔵の街魅カツアー」開催 ③「栃木市伝統文化体験事業」開催
事業費	105,200	113,000	218,200	75,000
市町支出金(ソフト事業分)	100,000	100,000	200,000	50,000
うち県交付金	50,000	50,000	100,000	
市町支出金(ハード事業分)	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	
その他自主財源等	5,200	13,000	18,200	25,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	教育委員会事務局 生涯学習部 生涯学習課 青少年係
担当者名	藤野 法之
当者名	電話 0282-21-2489
連絡先	FAX 0282-21-2690
	E-mail gakusyu05@city.tochigi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業収支精算書)

市町名	栃木市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
-----	-----	------------------------

単位事業名	高校生社会参画促進事業
-------	-------------

対象年度	2	年度
------	---	----

1 収入の部

科目	精算額	備考
市町村支出金	100,000	
自主財源	13,000	とちぎ高校生蔵部イベント収益金(既存財源)
計	113,000	

2 支出の部

科目	精算額	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		市町支出額	県交付金		
報償費	51,000	50,000	25,000	1,000	伝統工芸品(箸づくり)作成指導謝金 10,000円 伝統文化体験事業コーディネーター謝金 21,000円 栃木の街散策マップ制作デザイナー謝金 20,000円
消耗品費	10,000	8,000	4,000	2,000	箸づくり用消耗品 10,000円
印刷製本費	42,000	42,000	21,000	0	栃木の街散策マップ印刷代 42,000円 ・9,000部×4,6667円=42,000円(日本語版)
使用料	10,000			10,000	パーラートチギ使用料 10,000円 ・5,000円×2回=10,000円
				0	
				0	
				0	
				0	
				0	
				0	
計	113,000	100,000	50,000	13,000	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調書)
【単独事業】

市町名	栃木市
事業名	新生栃木市10周年記念 とちぎの人形山車 展示
事業主体の名称	とちぎの山車祭り伝承会
代表者の名称	会長 佐山 正樹
事業主体の所在	栃木県栃木市倭町4-1
事業主体の概要	・団体の目的:豪華絢爛な伝統的まつりと山車の巡行の伝統を守りつつ、人手不足の解消と山車の保存技術の伝承を目的とする。 ・設立年月日:平成15年9月12日 ・構成員等:山車所有町内を中心とした個人会員、協賛企業、協賛団体
当該事業に係る地域の現状と課題	山車所有町内の人口が減少を続けており、高齢化率も高まっている。このまま推移すると、人手不足で「とちぎ秋まつり」の江戸型人形山車の巡行に影響を及ぼす可能性が高まることが予想される。各町内とも、まつりへの参加や協力を近隣町内や知人等に呼びかけてはいるが、思うように増えてはいない。
事業目的	平成22年に、1市3町が合併してから10年を迎えた年に記念行事として、江戸型人形山車や獅子頭を展示し、その優美さや荘厳さを市民をはじめ、多くの方に楽しんでいただくとともに、令和3年の開催を目指している『とちぎ秋まつり』のPRを行うことで、歴史と文化に育まれた「栃木市」を広く紹介し、活力あるまちづくりに貢献することを目的に開催した。
事業概要	・市が主催する「新生栃木市10周年記念式典」に合わせて、とちぎ山車会館前ひろば等に伝統ある栃木の江戸型人形山車を展示し、市民が一体となって10周年記念を祝った。 ・とちぎ秋まつり及び市内各地域の観光PRを行うことにより、とちぎ秋まつりを含め、市内への観光誘客を図った。 【時期】 令和2年10月10日(土)、11日(日) 【会場】 とちぎ山車会館前ひろば 他 【内容】 ①江戸型人形山車及び獅子頭の展示 ②お囃子団体との連携 ③「とちぎ秋まつり」のPR ④市内各地域の観光PR
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【基本目標】「本市への新しい人の流れを作る」 【具体的施策】交流人口の増加／観光資源の魅力向上と有効活用 【KPI】主要観光地及び観光施設観光客入込数 H26:365万人→H31:380万人【H30実績396万人】

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	令和2年度	年度	年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①江戸型人形山車及び獅子頭の展示 ②お囃子団体との連携 ③「とちぎ秋まつり」のPR ④市内各地域の観光PR				①江戸型人形山車のPR ②江戸型人形山車の調査・研究 ③とちぎ秋まつりの継承
事業費	1,402,389			1,402,389	
市町支出金 (ソフト事業分)	1,300,000			1,300,000	
うち県交付金	650,000			650,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	102,389	0	0	102,389	0

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	観光振興課 フィルムコミッション・イベント係
担当者名	廣瀬・大関
電話	0282-21-2374
FAX	0282-21-2683
E-mail	kankou02@city.tochigi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業収支予算(精算)書)

市町名	栃木市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	新生栃木市10周年記念 とちぎの人形山車 展示事業	
対象年度	令和2	年度

1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
市町村支出金	1,300,000	市負担金
負担金	102,389	とちぎの山車祭り伝承会負担金
計	1,402,389	

2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
			県交付金		
報償費	500,000	500,000	250,000	0	山車展示謝礼(山車展示に伴う組立等の必要経費)
保険料	47,560	47,560	23,780	0	
消耗品費	263,689	161,300	80,650	102,389	コロナ対策消耗品 クイズラリー景品
印刷製本費	159,500	159,500	79,750	0	チラシ作成費
備品購入費	431,640	431,640	215,820	0	ベルトスタンド購入費
				0	
				0	
				0	
				0	
				0	
計	1,402,389	1,300,000	650,000	102,389	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合